様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		相模原市図書館協議会		
事務局 （担当課）		図書館　電話０４２－７５４－３６０４（直通）		
開催日時		令和８年８月１８日（火）　１８時００分～２０時００分		
開催場所		相模原市立図書館　２階　視聴覚室		
出席者	委　員	８人（別紙のとおり）		
	その他	０人（別紙のとおり）		
	事務局	９人（図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他６人）		
公開の可否		☑可　□不可　□一部不可	傍聴者数	１人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議　題		（１）令和７年度図書館事業実績について （２）令和８年度活動状況について		

議　事　の　要　旨

1　　議題

（1）　令和7年度図書館事業実績について

事務局から資料に基づき説明し、意見聴取を行った。

（渡辺（裕）委員）　資料5ページ （9）一般向け講座講演会の参加人数について、2,600 人目標のところ市立図書館の参加者数が大幅に増加したのが目覚ましい。和楽器の演奏会や一般向けのボードゲームなど、今まで開催していなかった集客力のあるよい視点の講座を新たに行っているが、新しくそのような類のイベントを企画したきっかけがあれば教えてほしい。

（事務局）　一般向けとして新規事業をいくつか開催したきっかけは、一昨年度に行った「地元カタン」体験会にある。近隣の淵野辺小学校の先生が教育にボードゲームを取り入れることはできないかということを研究なさっていて、その経緯の中で淵野辺小学校の子どもたちが作った「地元カタン」というボードゲームで図書館を会場に遊んでみようということがあった。それをきっかけに好評だという感触を得て、現在は初回でボランティア参加してくださった方を中心として結成された団体と連携して昨年度及び今年度イベントを開催するというところになる。詳しくは後ほどの議題で触れる。

新規事業として講座と和楽器演奏会のコラボ事業も開催した。2年前の大河ドラマ「べらぼう」は、江戸時代を舞台に「出版」をテーマにしたストーリーだったが、当時相模原市南区にも戯作者がいたという話題が盛り上がり、図書館でもその関連展示を行った。それを契機に、連携していた相模原市のシティプロモーション戦略課との間でもう少し深堀できるのではないかということになり、座学と音楽で江戸を感じようという企画を実施したものである。

（渡辺（裕）委員）　地域連携や話題になっていることを適切なタイミングで取り入れて実施しているというのはとてもよい。ちょっとした疑問だったが、深い話が聞けて良かった。

ボードゲームは小さい子だけでなく高齢者や YA 世代も楽しめることだと思うので、これからもやっていってもらえたら嬉しい。

（渥美委員）　毎年統計として整っており、ホームページにも分かりやすく過去のデータが掲載されているところに敬意を表する。私は図書館情報学について詳しくなく、指標のどの部分を重視すべきかは不案内であるが、図書館協議会において市民登録率が減少していることが度々話題になっていて、先般出張登録会などの提案もした経緯がある。

今日の説明の中で疑問に思ったのは、貸出点数および貸出者は増加し

	ているにもかかわらず市民登録率はやはり減少しているということである。図書カードの有効期限が来ても手間に感じて更新しないということや自然減などが原因として考えられるが、そのあたりはどう分析しているのかお聞かせ願いたい。
（事務局）	ご指摘のとおり、市民登録率は年々減少傾向にあり、昨年度の図書館協議会の中でも登録率を少しずつ改善するために小さな目標を設定したという経緯がある。お話の中にあった出張登録会についても昨年度から少しずつ取り組みはじめているところである。 貸出数については増加した一方で、登録率の減少傾向が止まらないことについては、今後図書館事業評価を作成する中で分析を深めていく。現状では、貸出者数はユニークユーザー数ではなく延べ人数であるので、新しく登録者がいる中で貸出者数も増えたというより、むしろ登録されている方の利用回数が増え、貸出冊数増加につながったのではないかと考えている。 図書館としても登録率を上昇させるのは大きな課題であると捉えているため、引き続き取組を進めていきたい。
（渥美委員）	私も同じ見立てである。おそらくヘビーユーザーがいるのだろう。要は、新規顧客という言葉が適切かは分からないが、どうマーケットを広げるかということに関してアイデアが必要だと考える。
（佐藤（玲）委員）	先ほどの貸出数が増加していることに関して、1つの教材に対して色々な資料が欲しいということで学校ごとに50冊借りられる制度があるが、この数値にカウントされているのか伺いたい。
（事務局）	学校に一度に50冊の貸出ができる制度は団体貸出制度を用いている。個人貸出とは別カウントになるので、こちらの数値には含まれていない。
（佐藤（玲）委員）	学校としてはとてもありがたいものなのでこれからも活用したい。
（大谷会長）	今、登録率の話題が出ている。最近の図書館は本を借りるところであると同時に、読書を楽しむ場でもある。今後、図書館には来館するが、貸出手続きのことを考えていない人が利用者登録をしないという可能性はますます増えると考えられる。例えば、来館目的の相当な比率が目的外利用であるにもかかわらず、入館者としてカウントしているなどの場合である。特に新しい図書館になった際にはそういった利用者が増えることが予想されるため、何をもって図書館利用者とするのかということは考えておいた方がよいのではないか。もちろん、登録率は増やすべきであるが、資料の貸出手続きを必要としない利用者も増える可能性があるため、全ての利用者が図書館に何を求め、どう使っているのかということを計れる仕組みを考えた方がよい。「本を借りるほどではないが、図書館に来ている」「図

	書館に来て、地域交流などでよく利用している」というような人たちは貸出の数字上では計ることができないということが予想されるため、そのような利用者を取り込むということは考えた方がよい。もちろん登録率は上げていくべきであるが、図書館に対して市民が求めるものが多様化しているため、とにかく本を借りるという人もいればそうでない人もいるということを色々と考えていただけたらと思う。
（小山副会長）	3点ある。1つ目は、市民登録率の低さはやはり何とかしなくてはいけないということを指摘しておきたい。 2つ目は(5)の利用者の満足度は、「満足」「やや満足」「どちらとも言えない」「やや不満」「不満」の5段階評価か。そうであるとすれば、この種の満足度調査で8割を下回るのは低いと思う。他の市町村の図書館の調査でも8割程度はあるのではないか。 最後に、先ほど佐藤委員がおっしゃっていた団体貸出の件だが、団体貸出制度が学校の先生方にどの程度浸透していると図書館は把握しているか。また、先生方はお忙しいと思うが、貸出をする際の選書、どういった本が欲しいかといったようなことはどの程度、どのような形で図書館がサポートしているか。 今日は先生がお二人いらっしゃるので、小学校・中学校から見て、図書館にこういったサポートもしてもらえるといいのではないかといったご意見などがあればぜひ伺いたい。
（佐藤(玲)委員）	私は直接選書したことはないが、学校図書館の担当や、国語や社会科の担当教師が選書して、市立図書館に依頼をしている。学習の中で、地図や企業、産業のことというように分類を依頼することもあれば、本当にピンポイントで「○○という動物の本」が必要で依頼することもある。しかし、学校図書室では大変冊数が少ないので図書館にお願いすると、市立図書館の方が選書して貸出してくださる。このように、具体的に「このような本がほしい」と依頼して貸出をしてくださることもあるし、図書館の蔵書を学校で再利用できるようにするといったリユース活動もしてくださるので、費用が限られている学校としては大変ありがたいと思っている。
（渡部委員）	中学校ではあまり利用例がない。
（事務局）	学校の団体貸出に関連して、6月議会でも議員から学校・教職員との連携を強くした方がよいのではないかというご意見をいただいた。本日の資料の中に「図書館で受けられる学校向けサービス」という資料をお付けしている。こちらは、議会のあとに担当が作成した、図書館で学校に協力できる事業を簡単にまとめたものである。こちらを学校の全庁掲示板に掲載するのに加え、10月以降に予定されている先生方の研修の場をお借りし

て、今後ご活用いただくように案内する時間を設けていただこうかと考えている。

（大谷会長）　以前、鳥取県立図書館を拝見した際は、稲作の授業のときは稲作の本だけでコンテナ1つ分というように単元ごとにクラス人数分を準備していて、教員免許を持っている図書館員をおいてやっているということを聞いたことがある。そのような対策をするのはなかなか大変だとは思うが、ぜひ学校の先生とも「特にこういう単元のときに資料が必要なんだ」というような意見を交換していただきたい。

２　令和８年度の活動状況について

事務局から資料に基づき説明し、意見聴取を行った。

（渡辺（裕）委員）　まず、ボーノ相模大野の本の団体貸出について、基本的な理解がないのでお教えいただきたい。団体貸出とはボーノの子育て施設に1か月本を貸してその場で子どもたちが楽しむためであって、ボーノから子どもに又貸しするとか、期間を1、2日与えて貸すとかそういうことではないという理解でよろしいか。

（事務局）　そのとおりである。

（渡辺（裕）委員）　もう一点だが、相模原市立図書館は変わりがなければ図書館流通センターに窓口業務委託をしていると記憶している。また紀伊國屋書店も大学の図書館の民間委託事業をしている会社であると思う。紀伊國屋書店は民間企業で、相模原市の図書館は公であるわけだが、コラボに対する線引きなどはどのようになっているのか。癒着などはないと思うが、民間の営利企業と公の兼ね合いというところが疑問である。

（事務局）　紀伊國屋書店と相模原市の図書館と連携のきっかけは、市の関係者と紀伊國屋書店の社長がたまたまお会いする機会があったということで、紀伊國屋書店の方から、何かできることや連携できることはないかとお話をいただいたところから始まった。半年ほど前に、まずは司書職が紀伊國屋書店で選書した本を直接購入したことから始まり、先月には紀伊國屋書店新宿本店で相模原市関連の本を司書職が選書、ポップを作成して一緒に掲示していただくという企画を実施した。

さらに今回は、図書館のブックカバーを作成してみませんかというお話をいただいた。当初は市立図書館でとお声がけいただいたが、橋本図書館が25周年であること、また橋本駅に紀伊國屋書店があることを踏まえて、橋本図書館で実施する方向でご検討いただき、実施に至った。

（渡辺（裕）委員）　ブックカバーの作成費用は紀伊國屋書店が応援してくれるものなのか。

（事務局）　印刷費は相模原市で負担し、紙代は紀伊國屋書店の負担である。

（渡辺（裕）委員）　きっかけとしては、紀伊國屋書店から地方自治体である相模原市を応援したいという気持ちから生まれた、温かい取組ということか。

（事務局）　そのとおりである。紀伊國屋書店では相模女子大学で同じよにブックカバーを制作していたが、今回は市と連携ということでお話をいただいたものである。

（渡辺（裕）委員）　紀伊國屋書店は地域振興や町おこしのような事業に手厚い企業なのだと感じた。普通のデザインのものに比べて特別デザインのブックカバーが欲しいという人は多いだろうし、コラボのブックカバーを本屋で見たら、実際に橋本図書館に行ってみようというスタートラインにもなると思うから、このような取組はたくさんやっていただけたら嬉しいし、頑張ってほしい。

（渥美委員）　図書館ごとにコメント1つと質問1つ申し上げたい。

市立図書館はJAXAとの連携ということで、素晴らしいと思った。スライドとは離れるが、第二次相模原市図書館基本計画の期限がそろそろくると思うが、第三次の策定を始めているかどうか伺いたい。

相模大野図書館については、ボーノでの新しい試みは知らなかったが、素晴らしいと思った。館長がお話されていた「子どもに特化する」というところで、その理由を教えていただきたい。

橋本図書館については、本当にたくさんの企画があって素晴らしいと思う。質問については、資料の中で飛ばされてしまったこの国立印刷局の件を教えていただきたい。

（事務局）　次期相模原市図書館基本計画については、令和10年度中に策定する予定である。来年度より策定に向けた準備を進めていきたいと考えている。

（事務局）　次に相模大野図書館から説明する。まず本市の市長も、「子育てするなら相模原」と言っていることは皆様ご存じかと思う。本市では相模大野図書館に隣接している中央広場を「子育て支援広場」として位置づけており、そこと連携をしている。また、相模大野図書館は先ほど申し上げたが、4階が子どものフロアに特化している。その中で市と相模大野図書館では子育てに力を入れてきたということである。

橋本図書館では、国立印刷局の方を講師としてお招きして講習会を開催した。官報についての基礎知識、データベースの活用方法や検索の仕方なども含めて職員の情報検索サービスのスピードアップを図ったものである。資料は全て印刷局の方でご用意いただけるもので、来年度以降も継続して開催していきたいと考えている。こちらの講習会は図書館受託職員も含めて、全員で受講という形で有意義なものになった。

（小山副会長）	各館が例年どおり、あるいはそれ以上に普段の活動を滞りなく推進されていることに敬意を表したい。私からは３つ申し上げる。 1つ目は先ほど渥美委員からもご発言があった、子どもという利用対象者のことである。橋本図書館では、おはなし会の参加者が平日には集まらないとの理由から土日に開催するという一方、相模大野図書館では例年どおり水曜日の午前中に行うということであったが、これはそれぞれの図書館の特性を反映しているのか。以前から、共働きで子育てする家庭が増えていて、専業主婦世帯の比率と逆転しているが、それでもなお、平日におはなし会を行う方がよいと判断しているのか。あるいは、土日に開催した方が子育て世帯が参加する機会を増やすことにつながるのか。相模原市図書館としての子どもの利用者、子育てしているご家族に対する取組の考え方についてお話を伺いたい。 2つ目は、1つ目と関連するが、相模大野図書館が取り組まれている4階の集会室をキッズ広場にするというのはすごくよいアイデアだと思った。他方、そこを利用していた、あるいはしたいと思っていた成人の方などが学習する場の機会を減じてしまうのではないかという懸念が生まれる。この点についてご教示いただきたい。 最後に、ご報告いただいた相模原市図書館の活動、イベントの多くが子どもあるいはティーンエイジャーをターゲットにしたものであった。一方、相模原市の人口が現在は横ばい、今後減少していく中にあってもなお、高齢者の存在は大きいと思う。高齢者をはじめとする子ども以外の利用者層に対して、特筆すべき活動を行っていないから報告していないのか、それとも通常のサービスとして実施しているからここに掲載されていないのかなど、子どもたち以外の利用者層に向けた活動に関して、何かあれば説明してほしい。
（事務局）	相模大野図書館から説明する。おはなし会の曜日だが、相模大野図書館でも土曜日に開催している。一方でなぜ平日である水曜日の午前中に開催しているかということだが、近くの保育園の子どもたちが中央広場に遊びに来て、そのあとに必ず来館してくれる。そういったことを見越してキッズルームの時間を合わせれば集客が見込めるのではないかと考えて試験的に運用している。 キッズルームを運用している4階の場所は集会室であり、学習室ではないので、本来は学習以外のことに使ってもよいものと解釈している。ただ、勉強するための貴重な時間や場所であることには変わりがないため、周知期間を非常に長くとり、また１日中ではなく午前中のみ試験的に運用している。運用当初はお叱りの声もあるのかな、と想定していたが今のとこ

	ろはそのような声はなく、利用者の皆様に受け入れていただいているので、しばらくは現状の運用を続け、ニーズが増えてくれば拡充もできるのではないかと考えている。 橋本図書館について、読み聞かせは土日にということだが、0歳から1歳向けのわらべ歌については働いている方もいらっしゃるとは思うが、育児休暇を取る方が増えてきているという面もあり、また開催が水曜日ということもだいぶ定着しているため、色々なご意見が出てくれば柔軟に見直しもするが、今のところはこのままの日程で開催していきたいと考えている。 また、橋本図書館ではシニア向けの事業も開催している。ただ、シニアについては人数をいつも少なく募集をして、1 対1ではないが手厚く事業展開をしている。その関係上、大人数に参加していただくような事業ではないため、今回の資料には掲載していないが、和綴じということで、読書手帳を作るような事業をすでに実施をしており、今後もシニア向けの事業の開催を予定している。3か月に1度、大人のおはなし会という事業で、ボランティアの方に読み聞かせをしていただいているものがある。 市立図書館では高齢者向け事業ではないが、俳句教室を初めて実施し、今年度も実施する予定である。また、橋本図書館と同様に大人向けのおはなし会も月1回実施しており、ちょうど本日は100回目の開催だった。
（渡辺（裕）委員）	おはなし会についてお伺いしたい。おはなし会で読み手になるのは、おはなし会のボランティアや運営サークルの場合があるのか、あるいは市の職員の司書の場合があるのか。また、おはなし会の勉強会のようなおはなしボランティア養成講座を開催していたということだが、大変興味があるため毎年募集してほしいし、今後の展望などがあれば伺いたい。
（事務局）	ボランティア講座については、3館持ち回りで開催している。今年度は、相模大野図書館で行う予定で、講師を検討しているところである。毎年開催しているので、もしご興味があればご応募いただければと思う。 おはなし会について、基本的にはボランティアと、窓口業務委託のスタッフに運営してもらっているが、市の職員が読み聞かせをすることもある。
（渡辺（裕）委員）	別の市の図書館で少しだけ働いたことがあり、おはなし会を実際しているのも影から見たことがあるが、読み手やその話を聞いている子供たちを見ていると、非常に生き生きとしている。だから私も司書の資格を取ったが、実践という面で全然できてない面が多い。情操教育の面でも大人になってもお話とか昔話とか郷愁を誘うものに触れてみたいという気持ちは変わらないと思うため、読み聞かせっていいなと感じる。ぜひこれからも頑張ってほしい。もしおはなし会の読み聞かせボランティア講座の募集があったら、是非応募したいと思う。

（渡辺（晃）委員）　各図書館で色々な企画をされていて、ワクワクすることがたくさんあるんだなと思い感心した。渡辺（裕）委員が言っていたボランティアのことだが、わらべ歌も確かにやっていたなと知ってはいたが、今回、わらべ歌会も変わらず開催されているとのことだった。ボランティア講座の募集があるのは、実践する場がないと、せっかく学んだものも生かされなくなるので、すごくよい試みかなと思った。やってみたいという気持ちがある人が行くと大変よい機会になるのだろうと思った。

質問として、体験型の企画がいくつかあるが、見込みの参加人数は考えているのか。先ほどのお話会の後の子どもの出張登録会のスライドがあり、その日はたくさん登録があったということだったが、実際に見ると、保育園児さんの方が多いのかなという印象を受けた。登録者数と、イベントが賑わったのかという実際が知りたい。見込みでの目標があったのか気になった。

（事務局）　こどもデーは今回市として初めての開催となる企画だった。以前出張登録会を子育て広場で行った際は図書カードを既に持っている方が多かったが、こどもデーは図書館以外にもブースがあり、図書館のためだけに来た参加者ばかりではなかった。そのためか、登録していただける方がかなり多く、36 名登録があった。おはなし会の方も、午前と午後 2 回開催したが、保育園やこども園の単位で来ているところが多く、たくさんの方に参加していただいた。人数が多くて声が届かずなかなか読み聞かせが難しかったが、こういうところになるべく出て行って、図書館を小さい頃から知っていただいて「じゃあ今度は図書館のおはなし会に参加しよう」という形で図書館に来るきっかけになればいいと思い、参加した。

スタンプラリーは先方からスポットとしての提案があったため、参加した。主催が図書館ではないので、図書館としては参加者数の見込みは立っていない状況である。スタンプラリーの台紙を配布する場所でもあるので、それをきっかけに来館される方も多い。この謎解き自体は入り口の外観を問う問題なので、入館しなくても答えられる問題だが、台紙は中に設置している。図書館としてはとりあえず中に入ってもらって「図書館とはこんなところなんだ」というのを見てもらいたくて、スポットとして参加した。

（佐藤（玲）委員）　先ほど、ボランティアさんのお話があったところだが、前任校で読み聞かせに来ているボランティアの中に毎月講習に通っているという方がいた。その方の読み聞かせは、子どもの目を見て語る「語り」であった。興味があり見せていただいた小さな本は、地域の公民館にたくさんある中の1冊であるということを紹介いただいた。子どもたちはそれを聞いて、図書館に行ってみるという声も聞いたことがあり、利用に繋がったのではないかと

いうことを思い出したのでお伝えする。

（井上委員）　シニアの立場から話をするが、皆様が本当に真剣に取り組んでいることを感じてありがたく思う。市の方でも子育て支援というのはすごく重要視しており計画を立てくださって感謝したい。先ほど、ただ本を借りる、利用者登録をするというのではなく、シニアは何を目的に図書館に来ているのかという話があった。私も橋本に行くことが多いため橋本図書館にお邪魔することがたまにあるが、少し涼んだり様子を見たりということが結構多く、利用者登録に至らないことが申し訳なく思う。また、橋本図書館は駅の近くでとても利用しやすいが、相模大野図書館は駅から少し歩く必要がある。地域に大きなマンションができて子育て世帯が増えることが予想される面ではよいことだと思う。先ほど述べたように、図書館に行っても様子を見るなどで、新しい興味のある本はお借りしたいと思うが意外と登録までは進まないというのが現状である。今回は皆様の熱い思いを感じたので利用者登録をしたいと思う。

（大谷会長）　図書館としては利用者登録をしてもらわないと困るが、別に利用者登録をしないことが悪いというわけではない。やはり市民のちょっとしたニーズを反映させて図書館を理解していただくということは図書館の中で考えて仕掛けていくことだと思う。

私の方で気になったことは、「おおのみんな de フェスティバル in 相模大野図書館」である。正直なところ伊勢丹が撤退してから、駅からの動線が途切れてかなり大変だったかと思う。地域の動線を復活させるという意味で、地域のために図書館は何ができるかという観点でこういった形で集まり、活動をされたということは非常に評価すべきである。今度市立図書館が新しくなる時には、淵野辺南口周辺まちづくり事業において新図書館はなにができるのか。あるいは、遠い将来になりつつあるが橋本にリニアが開業して新しい神奈川の顔になる時に橋本地域のために橋本図書館ではなにができるのか。図書館は従来、その地域の中で何ができるのかということについてあまり追及されて来なかったが、近年はトピックスになってきている。そういう意味で相模大野から伊勢丹が撤退したのはかなり大きな話で、相模大野図書館は私もマンションができる前に自分で歩いて行ってみて、正直なところ動線が分かりにくくふらっと行くのは結構大変だということを実感した。地域全体の振興と合わせて、こういう動線ができた、という周知は重要かなと思う。

以　上

図書館協議会委員出欠席名簿

令和８年度　第２回図書館協議会委員出欠席名簿

	役　職	氏　名	所属等	出欠席
1	会　長	大谷　康晴	青山学院大学教授	出　席
2	副　会　長	小山　憲司	中央大学教授	出　席
3	委　員	佐藤　玲子	相模原市立小学校長会	出　席
4	〃	渡部　賢一	相模原市立中学校長会	出　席
5	〃	佐藤　純	相模原市公民館連絡協議会	欠　席
6	〃	井上　邦子	相模原市社会教育委員会議	出　席
7	〃	渡辺　晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出　席
8	〃	松浦　浩樹	和泉短期大学教授	欠　席
9	〃	渥美　聡一郎	公募	出　席
10	〃	渡辺　裕子	公募	出　席